

① 習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「**深い学び**」が実現できているか。

算数・数学では、既習の数学，日常生活や社会に関わる事象について，数学的な見方や考え方を働かせ，数学的活動を通して，新しい概念を形成したり，よりよい方法を見いだしたりするなど，新たな知識・技能を身に付け，知識の構造や思考，態度が変容することが求められる。

例えば・・・

・数学を活用して問題を解決し，得られた結果の意味を元の事象や既習の知識と結び付けて捉えなおし知識や方法を統合し，さらに発展する活動を設けること。このような活動を繰り返すことによって数学的な見方や考え方も成長する。

② 子供同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

例えば・・・

- ・事象を数学的な概念や法則を用いて考え，判断し，その理由を互いに説明し伝え合う活動を設けること。
- ・数学的な表現に基づいて説明することで，簡潔・明瞭・的確に自分の考えを表現できることを実感する活動を設けること。
- ・自分では思いつかなかった友達の考えを理解してよりよく問題解決できることを実感する活動を設けること。
- ・一人一人の子供の表現を教室全体で数学的に洗練することにより，客観的で合理的な説明に高め合う活動を設けること。

③ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

例えば・・・

- ・問題を解決して得られた結果を意味づけたり，活用したりする活動を設けること。
- ・問題解決の過程を振り返り，数学的な見方や考え方のよさを見いだす活動を設けること。さらに，見いだした事柄を既習の事柄と結び付け概念が広がったり，深まったりしたことを実感できる活動を設けること。
- ・事象を数学的に捉えたり，学んだ数学を日常生活や社会で活用したりする学習などを通して，様々な場面において数学が役立つことを実感する機会を設けること。
- ・数学的な見方や考え方が，将来の様々な学習，職業や社会生活において幅広く活用され利用されていることを知る機会を設けること。